



私にとって一番うれしかったことは、この番組をきっかけにたくさんの方が私に会いに来てくれるようになったことです。今では抜里駅の中に「サヨばあちゃんの休憩所」を作ってもらい、そこを拠点に頑張っているんです。美しい川根の自然の中、この休憩所でほっと一休みしながら出会いのすばらしさをたくさんの人たちと分かち合いたい。土曜日や日曜日など、休日を中心に休憩所を開けていますが、全国各地からたくさんの方が足を運んでくれます。地元の人たちも何かと声をかけ手伝ってくれます。幸せなことに新しい出会いに満ちた居場所づくりが育っているように感じています。



今年、平成27年は2つの大きなイベントを実現することができました。1つ目は、5月に行ったお茶摘み体験ツアーです。SLの見える茶畑でお茶摘みと呼びかけて、抜里駅周辺の茶畑までお客様に来てもらい、茶摘み体験ツアーと茶工場の見学をしてもらいました。お茶もたくさん飲んでもらい、新茶も買っていただきました。

当日はボランティアでお願いした地元のおばあちゃんたちが大活躍です。昭和の時代の娘さんたちですが、今では70歳から90歳、そんなおばあちゃんたちが10名ほどお茶摘み用の赤いたすきに前かけかけて、かすりの善物でたっぴきり節を踊って盛り上げてくれました。



2つ目は、その翌週に行ったブライダル列車の応援です。SL列車に乗って結婚式を挙げるカップルが抜里駅を通過するとき、お祝いの横断幕を駅舎に掲げ、くす玉を割り、国旗を振って新婚カップルをお祝いするイベントです。このときもお茶摘み体験ツアーの感動が忘れられないと地元の人たちが大勢ボランティアで出動してくれました。



遠くから抜里駅に来るお客さんたちのために、朝からみんなでお食事の支度を一生懸命やりました。昼御飯のときには、でき上がったお惣菜をみんなで一緒にいただきました。外来のお客さんも、地元の人も、老人も、若者もみんな一緒です。大皿から小皿へ分け合って食べることで、家族のようなきずなが生まれました。今日はよかったよかったと和気あいあいと楽しみました。帰りには大井川鉄道さんの粋な計らいで、ブライダル列車のSLがふだんは止まらない抜里駅で臨時停車し、新婚さんたちもホームまで降りてきてくれてさらに盛り上がりました。

私が今年うれしかったのはこの2つのイベントです。何よりうれしいのは、地元の人たちや遠くから来てくれる人たちの温かい応援です。あれもこれもとアイデアを出し合って手伝ってくださる皆さんです。仲間を集めてくれる人、私が留守の間も休憩所を開けてお客さんのお相手をしてくれる人、外来のお客さんたちも、僕らは写真だけではないんだよ、地元を応援したいと思って来るんだよと言ってくださいます。うれしいではありませんか。ありがたいことです。新茶を買っていただき、低迷しているお茶農家もにっこりです。本当に元気をいただきました。

行政の方も応援してくださいます。助成金をいただき給茶機が買えましたので、何もなかった無人駅も、今では喉が乾けばいつでもお茶が飲めるようになりました。また、7月には、島田市市長さんもお忍びで来てくださいました。高齢者の宅配弁当をつくっている様子など、ありのままを見てもらいました。また、抜里駅の初代の駅長さんがまだお元気でられることを知り、御招待することにしました。市長さんも駅長さんもとても喜んでくださいました。今振り返ってみて、私は60歳からの暮らしこそが私自身の本当の生き方だという気がしています。人生はよくも悪くもその人の考え方、生き方次第で随分と変わるものではないでしょうか。

